

解 答	1 (B)	2 (A)	3 (D)	4 (C)	5 (D)	6 (C)
	7 (C)	8 (B)	9 (B)	10 (D)	11 (A)	12 (B)
	13 (A)	14 (D)	15 (B)	16 (B)	17 (A)	18 (B)
	19 (A)	20 (C)				

1. 「メロウ大通りの両側にはカエテの並木がある」

- ▶ 空所の後に単数形の side がきていることに着目する。2つのもの(この場合は道の両側)を表す場合, both は複数名詞につくが, either は単数名詞につく。

either ~ 「(2つ[2人]の)どちらか一方(の)/どちら(の~)も」

- ▶ 単数扱いする。

- ▶ 本問のように名詞の前に置いて、「どちらの~も」という意味の形容詞用法もある。

Please come on Monday or Tuesday. Either day is all right.

(月曜日か火曜日に来てください。どちらの日でもいいです。)

- ▶ 否定文で either を用いると「どちらも~ない」の意味になる。

I don't like either of the men. (私はどちらの男も好きでない。)

2. 「メアリーにはよくあることだが、彼女はまた授業を欠席した」

- ▶ 選択肢は(B)を除いて関係代名詞であるが, (C)which は非制限用法の場合, 主節のあとに置かれるので不適。(D)what は非制限用法で使われないので, (A)as が正解。as is often the case with ~で「~にはよくあることだが」という慣用表現。

as is often the case (with~) 「(~には)よくあることだが」

(= as is usual (with~))

- ▶ as にも非制限用法の which と同じように節全体を先行詞とする用法がある。ただし which 節が必ず主節の後に置かれるのに対して, as 節は主節の前後に置かれたり, 主節中に挿入されたりする。

As is often the case with him, he was absent from work. [主節の前]

(彼にはよくあることだが, 彼は仕事を休んだ。)

3. 「疲れを感じていたけれども、私はパーティが終わるまで滞在した」

- ▶ カンマの前後の内容を考慮すると, 逆接のつなぎ表現で結べば自然な文になる。(C)の but は等位接続詞なので, 通常は文頭において用いることはできないことに注意。(A)even は副詞なので文をつなぐことはできない。

although ~ 「~だけれども」 → although は though よりもやや堅い語。

Although Mary missed the last train, she was able to get home.

(メアリーは終電車に乗り遅れたけれども, 家に帰りつけた。)

4. 「違うサイズのコートを試着してもいいですか。このコートは私には小さ過ぎます」

- ▶ 文意から「小さすぎる」という表現を作れないと判断できる。形容詞 small は, too で修飾することはできるが, much では修飾できない。したがって, much too small という形にすれば「小さすぎる」という表現になる。語順に注意すること。

[例] It's much too expensive. (それはあまり高すぎる。)

■副詞 much が修飾できる形容詞原級

- (1) 比較の観念を含む superior, preferable, different など。
- (2) a- で始まる afraid, alike, ashamed alert aware など。この場合は通例 very much で修飾する。

大部分の形容詞原級は very で強調される : He is very [^xmuch] tall.

5. 「私は自分の家族と集まるのが好きです。集まった時はいつも私たちは楽しい時間を過ごします」

- ▶ 選択肢の中で(A), (B), (C)は複合関係代名詞で, (D)は複合関係副詞である。空欄の要素を除いてもカンマより前は完全な文として成立しているので, 空欄には文

を繋ぐ要素が入ると考えられる。よって、(D)whenever「～する時はいつでも」が適切な接続詞だと判断できる。

複合関係副詞 whenever/wherever/however の用法

(1)『時・場所』の副詞節を導く用法

- whenever 「～するときはいつでも」 (= (at) any time (when))
- wherever 「～するところはどこでも」 (= (at/in/to) any place (where))

*これらは『場所』や『時』を表す副詞節を導く接続詞と考えてよい。

Cars give you the freedom to go wherever you want whenever you want.

(車にはいつでもどこへでも行ける便利さがある。)

(2)『譲歩』の副詞節を導く用法

- whenever 「いつ～しても」 (= no matter when)
- wherever 「どこで[へ]～しても」 (= no matter where)
- however 「どんなに～でも」 (= no matter how)

*「no matter ~」に書き換えられるのは『譲歩』の副詞節を導く場合だけ。

- meet up 「(一緒に何かをするために、連絡を取り合って)落ち合う/集まる」

We met up after the concert.

(音楽会の後で私たちは落ち合った。)

6. 「4人の人々が高山での住宅火災から救出され、現在、彼らは全員病院で厳しい状態にある」
▶ 選択肢より、時制と態を決定する問題と推測できる。後半の部分の時制が現在になっていることから、前半は現在完了形を用いればよいということがわかる。また、four people を主語にすると rescue は受動態で用いられる点にも注意する。

7. 「残念なことに、我々の会社の売上げと利益は驚くべき割合で低下しつつある」
▶ rate「割合/率」は、通例前置詞の at と一緒に用いる。

[例] The country's population is increasing at a rate of 7% per year.

(その国の人口は毎年 7%の割合で増加している。)

8. 「何人かが唱えている速さで石油が枯渇しつつあることを、いまだ多くの人が完全に信じていない」
▶ be convinced that ~で「～ということを確信している」なので、空欄に be 動詞は入らない。a number of people が主語で複数扱いなので、(B)have が正解。

The number of A(複数名詞)——「A の数」が主語の場合は单数扱い。

A number of A(複数名詞)——「たくさんの A」が主語の場合は複数扱いである。

[例] A number of people were invited to the party.

(たくさん的人がそのパーティに招待された。)

9. 「多くの科学者たちが、地球温暖化が人間の活動によって引き起こされているという仮説を研究している」
▶ 空所の後の文が the theory の具体的な内容を示していると判断できることから、同格の接続詞 that が入る。「人間の活動が地球温暖化を引き起こしているという仮説」という内容。

同格の名詞節を導く that

名詞の内容を、それに続く that から始まる名詞節が説明して、同格の関係となる場合がよくある。

[例] I have overlooked the fact that the machine was out of order.

(私は、その機械が壊れていたという事実を見逃していた。)

▶ that 節は直前の名詞 the fact の具体的な内容を詳しく説明している。

10. 「新しいコンサートホールの建設に反対する人は一人もいなかった」
▶ 「～に反対する」という場合、object to ~と表現する。to は前置詞であることに注意。したがって、後続には動名詞の building がくる。
□ object to doing 「～することに反対する」 (= oppose ~)

No one objected to climbing the mountain.

(その山に登ることに誰も反対しなかった。)

『反対』に関する表現

□ **be opposed to** ~ 「～に反対している」 (= **be against** ~)

▶ この opposed は叙述用法の形容詞である。

They were opposed to my proposal.

(彼らは私の提案に反対していた。)

□ **object to** ~ 「～に反対する」 (= **oppose** ~)

▶ この to は前置詞であるので、後には名詞・動名詞がつづく。

No one objected to climbing the mountain.

(その山に登ることに誰も反対しなかった。)

□ **be opposite to** ~ 「～とは正反対である」

His personality is opposite to mine.

(彼の性格はぼくと正反対である。)

11. 「私は退屈だ。この会議が長くは続かないことを願っている」

▶ 会議の最中の独り言の類と考えれば、(A)carry on「継続する」が適切であろう。その他の選択肢はそれぞれ、(B)work out「(計画などが)上手くいく」、(C)go down「降りる、下がる」、(D)hang in「あきらめず頑張る」という意味で文意に合わない。

□ **carry on** (~) 「～を続ける/～を続ける」

He carried on with his experiment. [自動詞用法]

(彼は実験を続けた。)

They carried on working. [他動詞用法]

(彼らは働き続けた。)

12. 「私はダイアンに休憩するように言った。というのも、彼女がとても疲れているように見えたからだ」

▶ (B)take a break で「休憩する」という慣用表現になる。(A)make a break は「急いで逃げる、失言する」、(C)get a break は「運がいい、好機をつかむ」となり文意から外れる。

□ **tell A to do** 「A に～しなさいと言う」

A policeman told me to go with him to the police station.

(警官は私に交番に同行するように言った。)

『take a(n)+名詞』の慣用表現

目的語には動詞から派生した名詞が入り、不定冠詞 a(n)を伴う。通常 1 回で完結する行為を表し、行為への積極的なかかわりを含意する。

□ **take a walk** 「散歩する」

□ **take a bath** 「入浴する」

□ **take a nap** 「居眠りする」

□ **take a vacation** 「休暇をとる」

□ **take a look at** ~ 「～をちらりと見る」

13. 「通りでひったくられる恐れがあったので、ローレルは鞄をしっかりとつかんだ」

▶ (A)hold onto ~で「～をしっかりとつかむ」という意味の慣用表現になる。(B)keep と(D)seize は onto とつながる表現がなく、(C)pull onto は「乗り入れる」という意味となり、文意から外れる。

□ **hold on to[onto]** ~ 「～をしっかりとつかむ/～を離さない」

Standing passengers were holding onto straps.

(立っている乗客はつり革にしっかりとつかまっていた。)

14. 「昨晚、ジョンに出会ったとき、私は空港で母親を見送っているところだった」

▶ 空所の後の off に注目すること。see A off で「A を見送る」という表現である。

□ **see A off** 「A を見送る」 (⇒ **meet** 「～を出迎える」)

▶ 目的語が名詞の場合でも、see ~ off の語順になるのが普通。

It's nice of you to come all the way to the station to see me off.

(私を見送りにわざわざ駅まで来てくれてありがとう。)

15. 「車を洗うのを手伝ってくれないでしょか?」

□ **give A a hand with doing** 「A が～するのを手伝う」

▶ この hand は『援助の手』(=help)という意味である。

I gave her a hand with cooking dinner.

(私は彼女が夕食を作るのを手伝った。)

16. 「避けることができるものだったなら、ジェイソンは他人の議論に決して参加しなかった」

▶ (B)は get involved in ~で「～に関わる/～に参加する」という意味になるので、これが最適。(A)は mixed up なら、get mixed up in ~で「～に巻き込まれる」となる。

■ **get を使った受動態—get+過去分詞**

My glasses **got broken** while I was playing soccer.

(サッカーをしていた時に、私のメガネが壊れた。)

例文のように、受動態を作るのに、**be 動詞**の代わりに **get** を使うことがある。get を使うのは「～になった」のように変化を表す場合である。

17. 「私は、政府は税金問題について何かすべき時だと思う」

▶ I think it is と現在時制で始まっている文中に did が用いられていることから、It is time + 仮定法過去「もう～する時だ」という形だと判断できる。

□ **It is time + 仮定法過去** 「(まだ～していないが)もう～してよいころだ」

It is time you began to study.

(あなたはもう勉強する時間ですよ。)

▶ time の前に high「とっくに」や about「そろそろ」がつくことがある。

It is high time the children went to bed.

(子供はとっくに寝る時間ですよ。)

18. 「あなたはいかなる報酬を期待することなく人助けをするべきだ」

▶ 問題文の内容から、「見返り、報酬」という意味の(B)reward を選ぶとよい。

□ **without doing** 「～することなしに」

She went out without saying goodbye to me.

(彼女は私にさよならも言わずに出て行った。)

cf. **without so much as doing** 「～さえしないで」 (= **without even doing**)

The man passed by without so much as glancing at her.

(その男は彼女をちらっと見ることさえせずに通り過ぎた。)

19. 「新しいテーマパークを開発するという提案をめぐって、大きな興奮に包まれた」

▶ ここで over は about と置き換え可能。「新しいテーマパークを開発するという提案に関して」という副詞句の内容をふまえると、(A)excitement「興奮」が妥当。

[例] *The two nations had a fight over economic issues.*

(その 2 国は経済問題で争った。)

▶ over は about と比べて長時間の紛争、いさかいなどを暗示する。

▶ 他の選択肢は、(B)attraction「魅力」、(C)demand「要求、需要」、(D)appeal「訴え」。

20. 「幼い子供たちは、ときどき想像上の友達を持つことがある。これらの『友達』は存在しないが、子供たちは存在していると信じているのだ」

▶ 選択肢はすべて「想像」に関する異なる品詞であるから、第 1 文の構文を満たすような品詞を選ぶ必要がある。(A)imagine、(B)imagining は助動詞 have のあとに続かない。have が動詞であるならば、第 1 文は SV の揃った文であるので、空所に入る語は friends を修飾する形容詞(C) imaginary「想像上の」が適切である。第 2 文の内容からも、『存在しない友達』であるから、(C)が適切である。

▶ 他の選択肢は、(A)imagine「想像する」、(B)imagining「想像した物」、(D)imagination「想像力」という意味である。